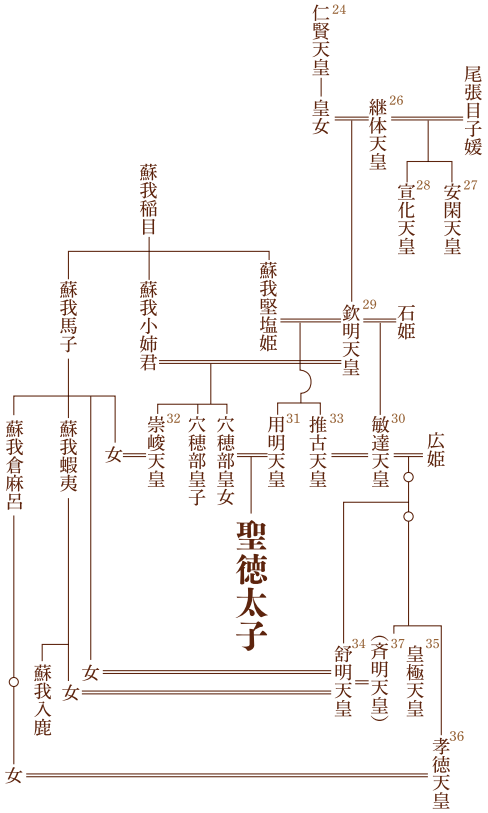
聖徳太子の生涯と仕事

聖徳太子ってどんな人？

聖徳太子（574〜622）は、用明天皇の第二皇子として誕生しました。母は欽明天皇の第三皇女の穴穂部間人皇女（あなほべのはしひとのひめみこ）です。太子の父母はいずれも欽明天皇を父に持つ異母兄妹で、蘇我稲目（そがのいなめ）の孫にあたるため、蘇我氏とは血縁関係にありました。

私たちが呼んでいる「聖徳太子」という名前は、彼の功績を称えて後世の人々が呼称したもので、生前の名前は厩戸王（うまやとおう）でした。名前の由来は諸説あり、厩舎の前で生まれたからとも、地名からとったとも言われています。『古事記』では上宮之厩戸豊聡耳命（うへのみやのうまやとのとよとみみのみこと）、『日本書紀』では、厩戸皇子（うまやとのみこ）や豊耳聡聖徳（とよとみみしょうとく）などと記されています。

幼少期から非常に聡明で仏法をあつく敬ったと言われ、伯母の推古天皇が即位すると、20歳の若さで摂政となります。蘇我馬子とともに政治を行い、大陸の進んだ文化や制度を採り入れ、天皇を中心とした中央集権国家体制の確立を図ったほか、日本古来の神道を信奉するとともに仏教に帰依し興隆につとめました。また、さまざまな伝説や逸話が残されており、たびたび聖徳太子とされる肖像画が紙幣の絵柄に使用され、漫画やドラマの主人公としても取り上げられるなど、古くから尊敬と人気を集めている日本人にとって親しみのある人物です。



聖徳太子伝説と太子信仰

聖徳太子の威徳は古くから伝説化され、「生まれてすぐに言葉を発した」、「2歳で念仏を唱えた」、「10人の話を一度に聞いて裁いた」、「予知能力があった」、「愛馬の黒駒で天を駆けた」など、超人的なエピソードが数多くあります。こうした伝説をもとに、日本仏教の祖、日本の釈尊、観音菩薩の生まれ変わりと仰がれ、今なお、聖徳太子像を祀った太子堂が全国各地に存在します。また、憲法十七条の第一条「一に曰（いわ）く、和を以て貴しとし、忤（さか）ふること無きを宗（むね）とせよ」には日本人の特徴が表れており、没後1400年が経った今でも、日本人の精神性に影響を与え続けていると言えるでしょう。

その一方で、近年、聖徳太子の存在を疑問視する説により、日本史の教科書や参考書では「厩戸王（聖徳太子）」と表記されるようになりました。しかし、「豊かな耳を持つ（＝賢い）」ことを表す名前を持った、非常に優秀な厩戸王という人物が実在したことは間違いないようです。聖徳太子が謎に満ちたミステリアスな人物だからこそ、より魅力を感じ、人々の憧憬を集めるのかもしれません。

聖徳太子の主な業績

仏教を尊び、多くの寺院を建立

聖徳太子が仏教を広めるために建てたとされる寺院は、日本各地に数多くありますが、聖徳太子の伝記『上宮聖徳法王帝説（じょうぐうしょうとくほうおうていせつ）』には、太子が七つの寺院を建立したことが記されています。四天王寺（大阪市天王寺区）、斑鳩寺（法隆寺／斑鳩町）、中宮寺（斑鳩町）、橘寺（明日香村）、蜂丘寺（広隆寺／京都市右京区）、池後寺（法起寺／斑鳩町）、葛木寺（和田廃寺／橿原市※諸説あり）で、これらは「太子建立七大寺」と言われています。

「冠位十二階」の制定

高句麗や百済の冠位制度を参考にして作った、我が国初の冠位制度です。役人を12の等級に分け、それぞれの位によって冠と衣服の色が決められていました。
それまでの豪族による世襲制の政治ではなく、家柄を問わず能力のある者を役人に登用するよう定め、日本を中央集権国家にし、外交の場での威儀を正すと同時に国際性を高める目的がありました。

「憲法十七条」の制定

「和を以て貴しとし…」で始まる17条の項目から成ります。日本で初めて「憲法」という言葉が用いられていますが、内容は役人としての心構えを示したものです。その一部をご紹介します。

和を大切にし、争いが起こらぬよう心がけなさい

三宝（釈迦、その教え、僧）をあつく敬い、仏教を信仰しなさい

天皇の詔を承ったときには、必ずそれを謹んで受けなさい

役人は常に礼儀正しくありなさい

役人は自分だけでなく他の役人の仕事も知っておき、互いに協力しなさい

遣隋使を派遣

遣隋使とは、中国大陸や朝鮮半島の進んだ文化や制度を学ぶために派遣された国家使節です。推古天皇の時代に18年にわたって5回以上派遣されていますが、最も知られているのは、隋の皇帝に倭国（日本）と国交を結ぶよう求めた第2回です。607年、聖徳太子が小野妹子に持たせた国書には、「日出処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや…」と記されていました。
このことから、太子が他国との対等な外交を目指して政治を行っていたことがわかります。
隋は倭国（日本）を国家として認め、『日本書紀』には、翌608年、小野妹子らが隋の使者とともに帰国したことが記載されています。

［聖徳太子 年表］（※諸説あり ※※年齢は数え年）

574年 用明天皇の第二皇子として、橘寺（明日香村）の辺りで生まれる。

587年 蘇我馬子の物部守屋追討軍に加わり、戦勝を祈願する。
（このとき、物部氏の精強な兵に撃退され、太子ら蘇我軍は一時、信貴山（平群町）に逃げ込み、四天王に戦勝祈願を行った）

593年 聖徳太子の伯母である推古天皇が即位する。
太子（20歳）は皇太子となり、摂政として蘇我馬子とともに天皇を補佐した。
物部氏との戦いの際の誓願を守り、四天王寺（大阪市）を建立する。

594年 推古天皇により、仏教興隆の詔が発せられる。

596年 蘇我馬子が戦勝の誓いに従い、法興寺（現在の飛鳥寺／明日香村）を建立。

601年 太子、28歳のとき、斑鳩宮（斑鳩町）を造営。

603年※ 冠位十二階を制定する。

604年※ 憲法十七条を制定する。

605年 太子、32歳のとき、斑鳩宮に遷る。

607年 小野妹子を遣隋使として中国に送る。
斑鳩宮のとなりに、斑鳩寺（現在の法隆寺）を建立する。

612年 百済人の味摩之（みまし）が伎楽を伝える。
太子がこれを奨励し、味摩之が住む桜井に少年を集めて伎楽を習わせた。

613年※ 片岡山（現在の達磨寺／王寺町）へ遊行し、飢人と出会い、食物と衣服を与える。

615年ごろ 『三経義疏（さんぎょうぎしょ）』というお経の解説書を完成させる。

620年 蘇我馬子と協力して、『天皇記』、『国記』等を編纂する。

622年 2月22日、斑鳩宮にて、聖徳太子49歳で亡くなる。
この月、太子を磯長陵に葬る。（『日本書紀』では621年2月5日に亡くなったとされる）
聖徳太子の妃である橘大郎女（たちばなのおおいらつめ）が、太子のために
天寿国繡帳（てんじゅこくしゅうちょう）をつくる。
（斑鳩町・中宮寺所蔵、奈良市・奈良国立博物館寄託）

［太子没後のできごと］

623年 仏師、鞍作止利（くらつくりのとり）が、太子のために、釈迦仏像（法隆寺金堂釈迦三尊像）をつくる。

628年 推古天皇崩御。

638年 子の山背大兄王に宮殿（岡本宮）を寺に改めるよう太子が遺命していたことから、
福亮僧正が弥勒像一躯と金堂を造立し、現在の法起寺（斑鳩町）の礎としたとされる。

643年 斑鳩宮の山背大兄王らが、蘇我入鹿の兵に襲撃され、
聖徳太子の血を引く上宮王家（じょうぐうおうけ）一族が絶える。